武雄市立西川登小学校　『校訓』 ただしく・やさしく・たくましく

長 子 配 布

学校だより 西っ子

Ｔｒｙ＆Ｅｒｒｏｒ＆Ｃｈｅｅｒ

33号　令和8年1月29日
文責：校長小川　修

アバンセ杯放送コンクール

第 26 回アバンセ杯放送コンクールに出場した子ども達。その結果をお知らせします。

「小学生朗読部門」

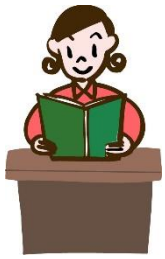
◆　優秀賞　◆6 年　木寺　璃乃さん
◆　奨励賞　◆5 年　田栗　羽夏さん

「小学生アナウンス部門」

◆　優良賞　◆6 年　大角　雷翔さん

文章を正しく読むこと。これは、理解力向上の基本です。加えて、相手にわかりやすく伝えるという技術を身に付けることは、コミュニケーションがうまくとれることにもつながります。

今回トライしたすべての子ども達に大きな拍手を送ります。



全国学校給食週間（１月２４日～３０日）

「食」。これは、命をつなぐ“物”であり“行為”です・・・

学校給食は、明治２２年に始まりました。その後、大正、昭和、平成、令和と時代が進み、たくさんの子ども達の健やかな成長に役立ってきました。

保護者の方々も給食にまつわるエピソードをお持ちではないでしょうか。私もいろいろな思い出があります。初めて“ソフト麺”が出た時は、驚きました。牛乳ビンのフタを集めて遊び道具にしていました。給食当番で、返却途中に転んで１０本ぐらい割った苦い記憶もあます。

現代は、飽食の時代。出されたものを食べなければ空腹を我慢しなければいけなかった時代と違い、自分の好みに合った物を食べることができる時代です。そして、食糧ロスの問題も深刻です。年間約４７０万トンの食糧が廃棄されています（令和４年度統計）。ですが、日本の食糧自給率は約４割。残りは海外からの輸入に頼っているのが現状です。

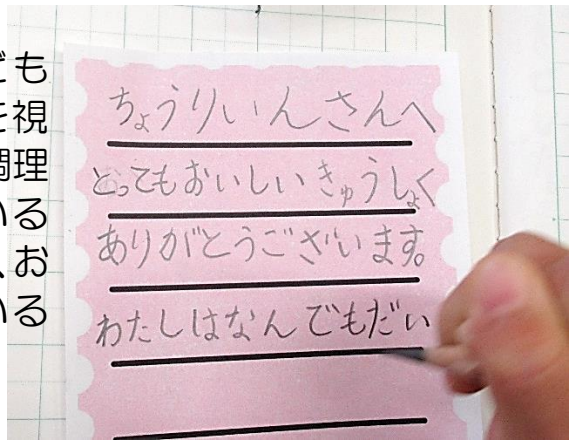
このような食の時代に、学校の給食時間に教えるべきことは・・・

『感謝』

○　一食ができるまでに、たくさんの人の関わりがあること。
○　命をいただいていること。

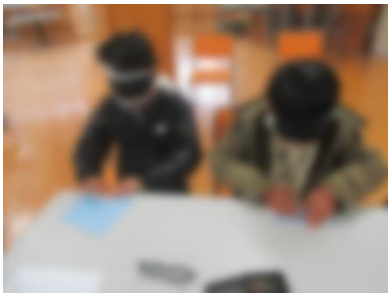
いつか子ども達が自立し、自分の力で生活していくようになればきっとこの感謝の深い意味がわかるでしょう。

給食委員会の子ども達が作成した動画を視聴後、毎日７０食の調理をしてくださっている調理員さんに向けて、お礼の手紙を書いている１年生。



どんな感じかなあ

様々な障害と共に生きる方々や加齢とともに体に不自由さが出てくる方々の事を少しでも理解しようと、４年生の子ども達が福祉体験活動を行いました。



アイマスクを着用して、紙飛行機を折ってみました。マスクを着けたまま、無意識に手元を見ようとする子どもと、顔は前を向いたまま手元に意識を集中させる子どもがいました。

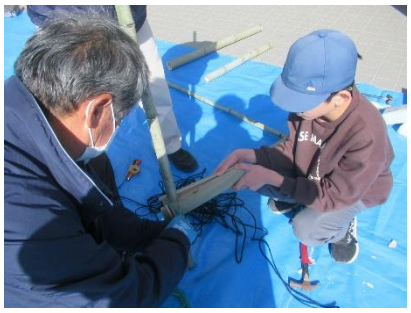
膝にプロテクター、体に重り付きのベスト、肘にサポーター、顔にゴーグル、手に手袋を着用して動いてみる。高齢者の動きづらさを体験したり、それをサポートする方法を体験したりしました。

このような体験を通して、相手のことを理解しようとする気持ちが芽生えたら嬉しいです。

＊＊＊

老人クラブの方々と一緒に竹馬づくりチャレンジ

今年も５年生が、地域の方々の手ほどきを受けながら竹馬づくりに取り組みました。



のこぎりやナタなど普段はあまり使わない道具も使ってみたり、針金で竹を固定してみたりしながら、老人クラブのみなさんとふれあいました。

「私たちにも、君たちと同じく 11 歳のときがありました。ゲームなどは無く、作った遊び道具やビー玉などで遊んでいました。」と言われたメンバーのみなさん。始まる前は、試作の竹馬に代わるがわる乗られ、「かかとを浮かさんば！」とか「前かがみにならんばさ！」と楽しんでいらしゃいました。

石橋さんからいただいた竹とんぼで遊ぶ子ども達